十字架の塔　心の旅路

1986-1996

2011 年 11 月

十字架の塔・平和と文化を育む会

代表　黒河　省二

もくじ

はじめに　１Ｐ

オランダ人参加者の感想文　２Ｐ

ティア・ホニックさんの手紙　７Ｐ

オランダ人参加者の氏名　９Ｐ

日本人ボランティアの氏名　１２Ｐ

花の世話の手記　１５Ｐ

年表　１６Ｐ

あとがき　３１Ｐ

写真　３３Ｐ

はじめに

下に掲げる記録は１９９６年に政府事業となる前の１９８６年から１９９６年までの約１０年間の記録です。

１９９５年度の外務省と水巻町行政の支援を除き、ほぼ１００％私達（黒河省二、知愛）夫婦が中心で進めてきたオランダ人元捕虜並びに遺族と、日本人関係者の方々による手作りボランティア記録のほんの一部です。様々な公的私的事情もあり、２０１１年１１月、初めて製作公表できるに到りました。

本来１冊の本にせねばなりませんが、今の処、それはお許しください。

そして先づ次の感想と手紙を読んでください。

黒河省二

１９９２年「第６回　オランダと日本・元捕虜と遺族の会」来日参加者の感想

下に掲げる感想のつづりは昨年（１９９２年）の来日参加者のものである。京都・フランシスコの家、サレミンク神父の提案により一行帰国の２日前、夕食会に招かれた折、記録したものである。

一人一人が明かす誠実な感想の内容は、私共には思いもよらぬことだった。

改めて自らに一層の努力を課さざるを得ぬ思いが、しみじみと体全体に伝わってきたのを昨日の様に忘れない。

サレミンク神父の通訳通り、省略なしに掲載するものである。

１．オデさん（女性）

日本で死んだ弟とお別れをしたくて日本へ来た。献花式を通してお別れができた。
守田氏達とキャンプ跡（大牟田）へ行き弟の最後の２年間の生活が何となく分かった。多くの日本人に会って話せたのがとても印象的で嬉しかった。長崎でハウステンボスへ行ったがこれ程のお金をかけている裏側で過去に死んでいったオランダ人と日本人の顔が浮かんでなぜか空しかった。

２．デイトマルスさん（女性）

２回目の訪問。日本人の考え方が少しづつ変わってきている事を感じる。良い方向へ向かっている気がして嬉しく思う。
黒河をはじめ多くのボランティアに対し感謝する。多くの仕事を通じてやってくださったことが本当に嬉しい。芦馬先生の存在を感じさせてくれて有難う。

３．ヴァン・オースチンさん（男性）

日本に来るまで不安と心配で決心しかねていた。ウインクラーによって来日を決定したが、ここに来て日本人と自然に会えて考えが少しずつ変わってきた。来るまで毎日日記をつけていたが、今は激しく心が動き、日記はまだ一度も付ける事ができていない程だ。振り返ると全てよかった。３つのことが残った。
①十字架の会が準備してくれた献花式は本当に力を得た。一生忘れられないことだ。どれ程の苦労があったことか。本当にありがとう。
②中間市への訪問　みなさん本当に心から迎えてくれ、思い出の道を歩き以前とは違い友人として歩けた。話しをし催しがあり、石炭をもらい、この体験は考えられなかった。中間の人たちへ厚く礼を申し上げたい。
③芦馬先生との出会い、先生の話を聞き感動した。もっと詳しく多くを聞きたかった。素晴らしかった。
最後にサレミンク神父にとても感謝している。

４．れいこ・ランゲルトさん（女性）

皆とは立場が違う。私は日本人とオランダ人の間の子だ。３７年振りに来て懐かしく、多くの日本人に会えてとても感動した。ありがとう。

５．ウインケラルさん（男性）

私にとって去年に続き２回目。去年はまだ過去は過去で分からなかった。去年困難の末自分の収容所が分かって嬉しかった。こうして再び来て信じられない程の親切な人に迎えられた。又沢山の資料をもらって、自分の人生の中でもっと自分を理解できる気がする。長崎の香焼町長、長崎市長が自分たち日本人に戦争の責任があると聞いて互いに近づくことができると思った。

６．ヴァンデ・ボルデ・ラースベルトさん（ウインケラール夫人）

日本へ来て考えられない程迎えられて感謝している。夫が昨年の来日を機に初めて安らいだ一年の月日を送ることができた。夫から話を聞いて頭で分かっても心では分からなかった。ここへ来て日本人も同じ平和を願って努力していることが分かりとても嬉しかった。

７．ヴァン・ハウテン夫人

全く想像できなかった。結婚前に主人の捕虜生活をきいても想像できなかった。主人はいつも落ち着かず。ウロウロしたり、夜中に大声を出し、目は大きくなり、叫び、聞いても返事をせず何か遠い世界で生きているみたいだった。

年をとり、落ちついたが、息子が火事で死んで又元にもどった先週まで４０年毎日こんな風に生きてきた。

元捕虜の会で相談したがだめだった。

ある日、ウインクラーに会い話を聞きびっくりした。

日本人と聞くと戦争が浮かび彼の話が信じられなかった。日本へ行こうかと思った。主人は絶対嫌と言う。しかし行かないと助からない。他の人の話も聞いた。その中で８９年に日本へ行った人（バン・ハーレン氏）にあった。その人はガンで危篤だった。その人は３回目の日本で初めて本当の日本人にあった。そしてやっと心がやすらいだと言った。そして安らぎの心の中で死んで行った。必ず日本へ行きなさいと言い残して、そして日本へ来た。まだ信じられないことだけどなぜこれほど親切にしてくれるのか。今私達は皆さんの暖かさの中で生かされている。ありがとう。

８．ヴァンデル・メウレンエクさん（女性）

私にとって疑惑・不安で来る決心がつかなかった。大きな偏見を持っていた。
しかし、１０日間で何か奇跡が起こった。１８０°の転回があった気持ちだ。ごく普通の日本人に会って親しく話ができてまだ全部ではないが国に帰ってすこやかな思いで暮らせる気がしている。

９．ウインクラーさん（男性）

１９８５年不安の心一杯で初めて来日した。自分の目でキャンプを見て林えいだいと会い、２年後黒河と会って水巻の人々を知り序々に理解をしていった。
私たちの運動に対し日本人が本当に私の心を分かって助けてくれた。だから毎年来ることができた。
御存じの通り、オランダは反日本、反日本人の感情がある。私に対し脅迫の電話はいつもある。
“敵と仲良くするな”“運動をやめろ”沢山ある。
戦争中の日本人は尊大であって本当の日本人ではなかった。勝手な願いだろうが、我々の味方であってくれ、この活動を決して止めないでくれ。日本とオランダの為になる日が必ず来る。最後に付け加えたい。
昨年、女王より勲章を受けた。女王でさえ我々のこの活動を認めてくれた。よろしくお願いする。

１０．ウインクラー夫人

少しだけ付け加えたい。今日１人１人の感想を聞いて力のない私達夫婦がこの運動を推進してきたことを本当に良かったと思った。本当の事を言うと一番親しい友が日本にいるような気がする。

１１．ブルムハードさん（男性）

初めて来日の折２つの目的があった。１つは日本で死んだ仲間の冥福を祈りたかった。２つ目は自由の身で日本の風景などを改めて見たかった。
妻と、世界の美しい所を旅しようと決めていた。だから日本も一度のつもりだった。
ところが信じられない事が起こった。暖かい日本人に会って帰る。
そして又来る。もっと会いたい。日本を知りたい。友となった人との出会いが一番の望みとなってしまった。ウインクラーに感謝している。こうして３度参加できたのもウインクラーのおかげだ。私も感謝で一杯だ。何もできてはいないけど。

１２．ブルムハード夫人

私にとっても３回目の参加。来るたびに懐かしい友の所に行くという思いだ。外国に行くという気がしない。

気楽に話せる様になって、同じ人間として心を感じている。香焼町、長崎市の首長と会い改めて本当に人の心を又知る事ができた。又日本へ来たい。

１３．オースチン夫人

長崎に行って被爆者の人達と話した。犠牲者どんな生活をしているのか・・・そのことは頭では分かっていた。でも心は感じていなかった。だけど日本人も沢山の犠牲者がいる事を強く感じた。水巻や多くの人々も皆犠牲者をもっているのに自分のことは話しもせず、ただひたすら親切にしてくれた。本当に信じられない。心から感謝している。

１４．ハースさん（男性）

私は２度目の取材、２年前元捕虜達は２週間で何が変わるか、ビデオを通し作品化した。今回だんだん自分の心の中で反対に日本人の立場からビデオを作成する必要を感じて来日した。だから今、日本人のもうひとつの心が分かる気がしている。

本当にびっくりしている。静かに一生懸命苦労した皆のためにお金をかけ仕事も休みこれ程やってくれるなんてオランダでは考えられない。それだけに今回の作品の成功を心から祈っている。

１５．シュルツさん（女性）

感激で何を言っていいか心の整理ができない。胸が一杯だ・・・

１６．サレミンク神父

今度で３回目のお世話だが強く感じたのは今度のグループは本当に心が一致している。互いによく理解しているし、立派に心の内を告白している。力を合わせて更に頑張りましょう。皆、行動もしっかりしているし、決して観光者でない事がよくわかる。
過去の事を乗り越えたい思いが伝わる。私も日本人と出会って２８年日本に住んで悪い日本人もいる。しかし良い日本人の方がずっと沢山いる。
日本人の特徴はいつも行動する中で相手の立場を考えてから自分を考える。過去を忘れることはできない。しかし過去を背負い、乗り越え、未来に向かって進むことはできる。
日本人の素晴らしい心を本当のおみやげとしてオランダに持って帰ってください。

１　オデさん　インドネシア婦女子収容所捕虜。父と弟は日本の収容所へ。弟は大牟田三池炭鉱にて死亡
２　デイトマルスさん　未亡人　夫は長崎１４の元捕虜
３　ヴァン・オースチンさん　中間市と長崎１４の元捕虜
４　ランゲルトさん　インドネシア人と日本兵との娘
日本に帰国した父を捜して会いたい
５　ウインケラルさん　福岡８の元捕虜、ハシモト、イトウに会いたい
６　ヴァン　ボルデ・ラースベルトさん　ウインケラル夫人、日本と違って姓を変えない人は割にある
７　ヴァン・ハウテン夫人　長崎１４の元捕虜の主人と共に来日
８　ヴァンデル・メウレンエクさん　インドネシア婦女子収容所捕虜　父親は捕虜としてタイとビルマをつなぐ泰面鉄道工事期間中に死亡
９　ウインクラーさん　水巻６の元捕虜　EKNJ 代表。オランダ側の交流開拓者
１０　ウインクラー夫人　元捕虜団体 EKNJ の事務方として夫を支える
１１　ブルムハードさん　長崎１４次いで飯塚２２の元捕虜
１９９５年まで夫妻で５回来日
１２　ブルムハード夫人　朗らかな人間性がいつも我々を元気にしてくれた人
１３　オースチン夫人　子供としてインドネシア婦女子収容所で捕虜
１４　ハースさん　テレビ局ドキュメンタリー製作部門
１５　シュルツさん　テレビ局　ハースさんの助手
１６　サレミンク神父　私たち夫婦の次に絶対必要な人（オランダ人）
京都フランシスコの家　１９９２年時点在日２９年
１９９７．４．４死亡５９歳

The Netherlands Amsterdam,January 7,2009

Dear Chiai and Shoji,

大変友好的、感動的な手紙、ありがとうございました。事故から完全回復したことを聞いて、私たちは嬉しく思っています。事故の後、あなたと知愛の生活は大変だったに違いないです。

あなたたちが十字架の塔の世話をまだ続けてしていることに対して、私はあなたたちを深く尊敬し、その努力に感心しています。

私たちの日本訪問、そして日本人のホスト、特にあなたたちの親切な心のおかげで、私はトラウマや心の傷を乗り越えました。そのトラウマがあったのは、日本の国民を責めるわけではありません。ただ、私は長年、和解のために行ける場所もなかったし、父の魂に祈る場所がなかったのです。日本訪問を通して、私は生まれ変わったと感じて、今は、私は居場所があり、福岡で会った大勢の親切な人々を懐かしく思い出すことができます。皆さんのおかげで、私はようやく平和を感じて、父の死を受け入れることができました。

そういう訳で、あなたたちが十字架の塔の世話をしていることに感謝しているだけでなく、あなたたちが私の人生を完全にしてくれた、と私は思っています。あなたたちにその深い感謝を改めて伝えたいと思います。

サレミンク神父のことですが、残念なことに、私は彼に会う機会はありませんでした。しかし、サレミンク神父の考えに同意します。それは、日本人とオランダ人は同じ心を持っているということです。

知愛さん、省二さん、戦争ということは、政治と強欲が作り出すものです。戦争は私たちのような平凡な人が作り出すものではないです。私たちは正しい人生を送り、お互いを手伝おうとしているだけです。

健康に気を付けて、元気でいてくださいね。

私と夫は今８０歳になり、私たちの人生が終点に近づいています。しかし、残っている時間で、あなたたちのことをいつも思い出します。私と夫にとって、あなたたちと出会うのは、人生の最大の喜びです。心から、感謝をしています

Hans & Thea Honig

追伸：私は３回住所を変えて、あなたの手紙が届くまで多少時間がかかりました。

私の本姓は　Bossink。

（左：Hans さん、右：Thea Honig さん）

宮田町収容所跡にて（1989.11.6）

手紙は２００９年のものです。本人の許可を貰っています。

ある目的があって、先の１０年間に訪日した全員に手紙を出しました。

そのうちの返事のひとつです。１９８９年３回目来日者５人の内の夫妻です。奥さんが遺族です。

宮田町の収容所跡をあちこち探しまわり、あげくの果て石炭資料館の井上芳邦氏が自転車で追いかけてきてドラマチックそのものになりました。感想文と手紙。

私たちが何をやろうとしたか。

何をやったか。

およその思いをはせて頂けるものと思います。

次は人です。

下に掲げる人々は、世話をする日本人もされるオランダ人も、共に力を合わせてきた人々です。

ウインクラー氏が代表のＥＫＮＪの人々は日本に対して賠償を求めず、日本人を許し、悪い思い出と印象がほとんどの日本を敢えて尋ね、日本人に接し心の病いを癒すのが目的の人達です。しかも今も続いている外務省事業と異なり旅費等は個人持ちです。

口コミで広がった来日者が年々増えることで協力者も年々増えました。

私共への協力の申し出を断る人は全く無いどころか本当に心から真剣に取りくまれました。日本人は素晴らしいと改めて思いました。

私共が記録として最重要かつ残さねばならないのはこれらオランダ人と日本人の名前です。

日本人名は、私共の不手際や記憶違いなどで記録されていない人達がいます。その方は水巻町役場に連絡ください。名前、手伝った年月、状況、電話番号などを伝えてください。お願い致します。再記録して貰います。

なお、オランダ人名は元捕虜と遺族と神父さんとにしました。御了承ください。

※注　個人名の後に（　）の付いてない人は全て水巻町です。

オランダ人参列者

第１回［１９８７年3月２９日］

・ドルフ・ウインクラー

・ディルク・ビンズ（オランダ大使館一等書記官）

第２回［１９８７年9月２７日］

・ドルフ・ウインクラー

・カリー・ウインクラー

・フレッド・ブルムハート夫妻

・ディルク・ビンズ

第３回［１９８９年１１月５日］

・ドルフ・ウインクラー

・カリー・ウインクラー

・Ａ．ヴァン・ハーレン

・ハンズ・ホーニング夫妻

・ボーマ・デ・ヨング

第４回［１９９０年１１月４日］

・ドルフ・ウインクラー
・カリー・ウインクラー
・Ｋ．ズアーンスエーク
・Ｂ．プルメーズ夫妻
・Ｗ．Ａ．ヴァン・ゲルスウイク
・Ｍ．Ｊ．メツ
・Ｒ．グルネベルト
・Ｊ．ルーベン
・ワーナーハース
・キップ
・Ｊ．ヴァン・ダルフセン
・Ｍ．ヴァン・グルプ
・Ｅ．ディスクツラ

第５回［１９９１年１０月２０日］

・ドルフ・ウインクラー
・カリー・ウインクラー
・Ｆ．ブルムハルド
・Ｍ．ブルムハルド
・Ｊ．リムバグ
・Ａ．リムバグ
・Ｅ．デ・ヴィリス
・Ｈ．スヌック
・Ｌ．ゴッメルス
・Ｓ．ヴェルドー
・Ｂ．イデマ
・Ｍ．デイトマルス
・Ｊ．Ｗ．Ａ．バン・ガステル
・Ｐ．ブラーベル
・Ｃ．ヴァン・デン・ウェル
・Ｖ．ウインケラール
・Ｓ．ヴァン・デ・ヴェーン
・Ｅ．コルステル
・Ｅ．ボーペン
・ゲラルド・サレミンク神父

第６回［１９９２年１０月２５日］

・ドルフ・ウインクラー
・カリー・ウインクラー
・Ｆ．ブルムハルド
・Ｍ．ブルムハルド
・Ｊ．バン・ハウテン
・Ｓ．バン・ハウテン
・れいこ・ランデゲルト
・Ｍ．バン・デイトマルス
・Ｌ．ヴァンデル・メウレンエク
・Ｅ．オデ
・Ｅ．バン・オースチン
・Ｊ．バン・オースチン
・Ｖ．ウインケラル
・Ａ．ヴァンデ・ボルデ・ラースベルト
・Ｗ．ハース（テレビ関係者）
・フローラ・シュルツ（テレビ関係者）
・ゲラルド・サレミンク神父

第７回［１９９３年１０月３１日］

・ドルフ・ウインクラー
・カリー・ウインクラー
・Ｐ．ブラーベル
・Ｓ．クラグト
・Ｍ．ヴァン・ローン・イデマ
・Ｊ．ベーエン
・Ｃ．ヴァン・ドロンゲレン
・Ｍ．ヴェルスオール
・Ｂ．イデマ
・Ｒ．ヴァンデンベルグ（オランダ大使）
・レイヤルス・クリスティーネ（大使夫人）
・Ｉ．デッケル
・Ｒ．ルットケ・シキップホルト
・Ｍ．ヴェルリンデン
・Ｋ．スミズ
・Ｆ．スミズーポスト
・Ｈ．シグモント・メッリンク
・ヴァン・アルフェン
・ゲラルド・サレミンク神父
・Ｊ．ライトジェス
・Ｊ．テルプストラ
・Ｐ．ヴァン・ローン

第８回［１９９５年１０月２９日］

・Ｊ．ボス・ヴァン・チャランテ
・ＪＪ．ボス・ヴァン・チャランテ
・Ｊ．キルス
・Ｍ．クルル
・Ｐ．ベルヒツ
・Ｊ．ベルヒツ
・Ｄ．ウインクラー
・Ｃ．ウインクラー
・Ｆ．ブルムハード
・Ｔ．ブルムハード
・Ｈ．デ・ウィルジェス
・Ｍ．ウエナンツ・クノル
・ひでこ・ギスケ
・Ｈ．ホルン
・Ｅ．ホルン
・ひでき・ボーデスタッフ
・Ｔ．ヤドゥナテミシール
・Ｍ．ヴァン・デイトマルス
・Ｗ．ヴァン・デイトマルス
・Ａ．モルチル
・Ｍ．ヴェルリンデン
・Ｅ．リンディエル
・Ａ．リンディエル
・Ｊ．フランケン
・ゲラルド・サレミンク神父

協力者（献花式参列者の皆さん、歓迎会参加の皆さん）

（個人）

山本正敏、野坂時夫、仲道信夫、国武辰夫（北九州市）、大城規子（福岡県大野城市）、石原長三（福岡県中間市）、伊藤陽夫（沖縄県）、長濱里子（北九州市）、金子崇正（北九州市）、石原無堂（北九州市）、奥村政夫（福岡県遠賀町）、林康夫（大分県中津市）、古沢弘行、勇福子（北九州市）、加藤直子（岩手県釜石市）、田島治太夫（長崎県長崎市）、鎌田定夫（長崎県長崎市）、西鳥羽省五、吉村正男（福岡県中間市）、杉本信子、長谷川淳一（福岡県宮田町）

（団体）

・水巻町カトリック教会：信者一同、小笠原勝己、川島晋二、マヌエル・ダバルタ神父（フランス）、ベリオン・ルイ神父（フランス）
・水巻町役場：行正悟、山田浩幸、福井彰一、小野元次、山下勝利（社会教育課）
織田隆徳（総務課）
ラルフ・シュリオック（教育委員会）
堤野久男（企画課）
永沼英和（助役）
伊藤衛門、田中博幸（町長）
・中間市歴史民俗資料館（福岡県中間市）：大丸勝彦、佐々木武彦、工藤久、高野正兵衛
・中間市役所：藤田満州夫（市長）、永田隆重
・飯塚市文化連盟（福岡県飯塚市）：小出和典、藤嶋玄悟、山崎漢山、藤木徹雄
山田登志夫、紙野美寿江、田中みき
・飯塚市役所：宇佐波誠
・稲築町役場（福岡県稲築町）：上野智裕
・穂波町役場（福岡県穂波町）：岡松伍郎
・宮田町石炭資料館（福岡県宮田町）：井上芳邦
・直方市石炭資料館（福岡県直方市）
・田川市石炭資料館（福岡県田川市）
・長崎原爆資料館（長崎県長崎市）：田崎昇、松尾緑
・長崎市役所：本島等、伊藤一長（市長）
・香焼役場（長崎県香焼町）：國貞亮一（総務）、岩本富一（教育委員会）
・釜石市役所（岩手県釜石市）：山田守、小林俊輔
・川崎市役所（神奈川県）

・広島市役所（広島県）：森陽子
・外務省（東京都）：明石美代子（欧亜局）
・ボーイスカウト（福岡県水巻町）：木村育生、坂本国實、高橋輝美、佐藤さつき
・ガールスカウト（福岡県水巻町）：下橋清子
・東筑高校吹奏学部（福岡県北九州市）
・杁小学校（水巻町）：東和夫（校長）
・頃末小学校（水巻町）：斉藤勝明（教職）、行部勇（校長）
・水巻中学校生徒会
・新聞社：朝日新聞社、西日本新聞社、読売新聞社、毎日新聞社（福岡県）
　　共同通信社、日本経済新聞社（東京都）
　　岩手日報川井博行（岩手県）
・テレビ局：ＮＨＫ、ＫＢＣ、ＴＮＣ、ＦＢＳ、ＲＫＢ（福岡県）
　　ＮＨＫ本部（東京都）
・黒崎そごう社員有志一同（福岡県北九州市）
・ホテルまつや（福岡県北九州市）：浦崎浩之
・（株）日本旅行（福岡県福岡市）：中村信昭、増田洋介

主催者（花作り・オランダ人の世話・塔と周辺の整備）

主要メンバー

芦馬鷹洲（福岡県赤池町）、ゲラルド・サレミンク神父（京都市フランシスコの家）、
黒河博、中村増男（福岡県太宰府市）、村瀬勝美（福岡県篠栗町）、黒河省二、黒河知愛、
黒河文英、黒河史慎
日蘭チルドレンクラブ：黒河悦子、長田真里、杉本沙知、瀬川チサト、磯野愛、
福田ようこ（全員水巻南中学校生徒）

応援メンバー

野村勇、守田幸夫、宮子夫妻（福岡市）、黒河英利、武尾一三、堤野久男、
肥塚八十生（福岡市）、木村武男（福岡県中間市）、今岡秀夫、長田信利（北九州市）、
福田陽子、山本信子、川島ゆう子、山田和子（北九州市）、黒河享一、樋口千恵子、
樋口幸代、小池明、松尾マス、山本すま子、四ツ谷きくえ、本村昇（福岡県田川市）

以上、当方の記録表１０９名、しかし次の年表の中で表に現れず黒子に徹した人を始め、各地の団体の構成員、参列参加者の全て、水巻その他の小中学生さんと携わった教職の人々、とにかくわずかでもオランダの人の心に触れた方々を列記できればその数、数千名になると思います。いつかやれる日がくればと思います。

多くのオランダ人が感激してくれた花作り

黒河知愛

Ｓ６２年の第１回と２回の献花式は花は無かった。

当時、住んでいた日本炭鉱の社宅の沿道に咲かせていたコスモスの種を十字架の周りに蒔き、第３回の献花式はコスモスが咲き乱れる中で行われた。

２月の水仙から始まり、花の国オランダ人の鎮魂の為に１年中咲く様にする為には、今咲いている花の下で次々と芽を出す様にしなければならない。

営業の仕事をしていた私。花を見つけては事情を話し分けて頂いた。

主人と共に水巻、博多、英彦山、赤池、若宮、豊前、若松、山口県等々、集めて回った。

毎週土、日をかけて家族やチルドレンクラブと力を合わせた。芽吹の頃、植え替えの時、乾燥の夏、坂の真下の町営墓地の水道までバケツリレーだった。

１年中、各地の親切の花、次々と十字架の周りで魂の花を咲かせてくれた。

種、苗をくださった人々の心が開いて美しかった。

年表（一部福井彰一氏資料参照）

●１９８６年（Ｓ６１）

夏頃、黒河省二　フクニチ新聞（Ｈ３廃刊）に連載されたルポ「青い目の捕虜達」の切り抜きにかかる。

１０月頃

切り抜き終了後、省二、これに関わる活動を使命と直感し、次兄博を誘い著者林氏を尋ね、その場で方針決定。

１１月

次兄博を代表と決め、草刈り奉仕隊（仮称）を設立（メンバー７名）

１２月２７日

正月前清掃作業（小生一家）

●１９８７年（Ｓ６２）

１～３月にかけて黒河省二、タブロイド４ページの水巻ジャーナル創刊に向け取材活動

２月初め頃

水巻カトリック教会のマニュエル・ダバルタ神父さんに無償で儀式をお願いする。その場で快諾。以後１０年、小笠原信者代表を中心とした聖歌隊（数十名）が、常に式典を美しくさわやかにしてくれた。

２月１９日

清掃　花替え　草取り（小生一家）

３月初め

水巻ジャーナル１０，０００部、新聞全紙に折り込む。初の慰霊祭の宣伝とする。

３月２０日

町当局　塔の拡張工事完了（第一期工事）

３月２１日～２５日

塔一帯の清掃　伐採片付け　草取り（有志全員　小生一家）

３月２７日

ウインクラー氏を門司の庭園「四季の丘」へ招待

なじみの園主矢野氏より塔へ「左近の桜」を頂く。

３月２９日

十字架の塔、平和と文化を育む会主催第１回献花式（慰霊祭）

来賓２名　一般参列者約１５０名

初めから心がひとつに結集し想像を超えた盛大な式となった。午後説明会と歓迎会（商工会館にて）

３月３０日

ウインクラー、ビンズ両氏が９月に改めて慰霊祭をしてくれと頼む。感動したと言う。以後ウインクラー氏帰国まで６日間省二夫妻で付き添う。

４月２１日

草刈・清掃　片付け（小生一家）

６月１６日

草刈・清掃　片付け（小生一家）

８月１０日

草刈・清掃　片付け（小生一家）

９月２３日

草刈・清掃　片付け（野村勇、樋口家、山田家、黒河家）

この間７月下旬ころから１回目に用意した奉賀帳を基に２回目案内状の製作送付開始。式当日に配るパンフレット作り（３００部）等全て手作り。我家の戦場が１０年続くことになる。

９月２５日

ウインクラー氏一行４名を迎える。　福岡空港

９月２６日

塔にお参りして一路門司港へ

※門司港は３６，０００人近くの連合軍捕虜の大部分が、日本に初上陸した港であり、ここから各収容所へと送られていった。敗戦と同時に捕虜に関する資料は全て燃やされたので、何を信じていいか分からないが、日本への搬送中の病死者と米潜による海没者を合わせると１１，０００人が死亡。収容所死者３，４８０人を加えると１４，４８０人が日本へ向けての死者と考えられる。（POW 研資料、一部 GHQ）

※全国の収容所数　最大時１３０　終戦時９１（九州～北海道）

※南方戦線での連合軍捕虜数はおよそ１４万人。そのうち、約半数が死亡したとされる。（GHQ 資料）

９月２７日

十字架の塔・平和と文化を育む会主催

第２回献花式　来賓５名　一般参列者約２００名

午後歓迎会（中央公民館）

９月２８日

水巻町、宮田町キャンプ跡視察（金子崇正協力）

宮田町石炭資料館見学

９月２９日

直方市石炭資料館　田川市石炭資料館見学

●１９８８年（Ｓ６３）

５月頃から妻知愛による花壇作りが始まる。（以降月に３回以上の花作り作業）

●１９８９年（Ｈ元）

８月１０日　ウインクラー夫妻　突然来たる

８月１１日

ウインクラー氏町へ現時点で判明している全国で亡くなった捕虜８１６名分の銘板設置の要請を行う

（後程、町が承諾、ウインクラー氏より小生が２枚の銘板製作設置及び塔の原形改修の全てを１００万円で要請され、とにかく承諾した。）

（前年、町の第一期工事責任担当者に塔の原形は歴史遺産として残そうという小生の考えを伝え彼も全く同意見、ビンズ氏も同じだった。ウインクラー氏だけ納得してなかった。結果ウインクラー氏の改修の情熱が勝った。）

８月１２日

夫婦を誘って宮地嶽神社（福間）南蔵院（篠栗）を案内。

私たちはヒューマニストだからと言うのを強引に連れて行く。

どちらも宗教色がないので結構楽しんでいた。

ヒューマニズムの原意が何かを考えさせられた。

８月１７日

花田企画（飯塚市）の野見山氏と銘板について相談。

以後１０．９の完成まで４回訪ねる。

１０月３０日

石原長三氏（中間市）塔の第２期工事完了

塔の左右に銘板設置　８１６人の死者が合祀される。

（塔の改修費は５万円足らずだったが、石原氏はその１０倍以上の工事をした。純白壁と茶のタイル、美しい十字架の塔の完成）

本人曰く「南方で戦死して骨もない２人の兄の供養を兼ねた。こんな仕事をさせてもらって光栄です。」

（石原氏は友人の設計士　国武辰男の友人。以降亡くなる迄支援者となった）

１１月２日

ウインクラー一行（５名）を迎える（福岡空港）

１１月３日

ウインクラー一行　塔と門司港へ案内

１１月５日

育む会主催　第３回献花式

来賓５名　一般参列者約２００名

午後　歓迎会（梅ノ木団地公民館）

１１月６日

宮田町石炭資料館見学

宮田町収容所跡視察　田川市石炭博物館

１１月７日

机小学校へ案内（東校長と打合せ済）その後、水巻町文化祭見学

１１月８日

チューリップ球根１０，５００個届く（高校生達が廃品回収したお金でプレゼント町へ配布依頼）

●１９９０年（Ｈ２）

５月８日

塔にコスモス種蒔（チーム作業）

８月１１日

花壇作り、竹組み作業（チーム作業）

１０月２０日

竹刈り、草刈り、清掃片付け（チーム作業）

１０月２９日

ウインクラー一行１４名出迎え（福岡空港）

１０月２５日

塔から門司港へ

１１月１４日

育む会主催　第４回献花式（サレミンク神父同行）

主賓１４名　参列者約１８０名

●１９９１年（Ｈ３）

２月３日

山本賢洲の会　塔周辺の雑木伐採

４月１１日

ウインクラー氏　単独来訪

４月１２日

ウインクラー、省二夫妻、山本信子の４人で力丸ダム桜見物

７月１日

東和夫　机小学校校長の英断によって上級生全員が草取りに学生として初参加

（TV,新聞に報道）

（１年以上前から心の教育として進めていたが、教育委員会がヘビとムカデを原因として許可しなかった。その上での決断である。因みに当時、水巻中学校は感心が薄かった。理由は分からない。）

９月９日

サレミンク神父（京都）　打合せ訪ね来たる。

１０月７日

水巻中学生徒　塔周辺草取り奉仕

１０月１８日

水巻中学生徒　塔の清掃奉仕

１０月１８日

ウインクラー氏一行（１９名）出迎え（福岡空港）

１０月２０日

育む会主催、第５回献花式　来賓１９名　一般参列者約１８０名

午後　歓迎会（平和とふれあいの集い）水巻町主催（中央公民館）

行正悟、山田浩幸おでんコーナー接待開始　人気を博す

１０月２２日２３日

NHK の全国放送ドキュメンタリー収録を受け全員バスで出発。現地では飯塚市、稲築町の協力者が全面協力する。

（筑豊とは１か月前から協力し合って収容所跡地の特定等作業していた。）

１０月２４日

筑豊の収容所組６人のオランダ人、飯塚にて歓迎会を催される。

１０月２５日

全員列車にて長崎へ出発。長崎市、香焼町訪問

これより毎年被爆者との話。互いに融和を深める。（長崎平和会館）

１１月初め

水巻町文化祭に参加。町民とのふれあいに心癒される。後、帰国する。

●１９９２年（Ｈ４）

２月８日

ウインクラー氏バラ苗木２５０本送る。夫婦で空港に取りに行く。（検閲料に驚く）

２月１９日

町に２００本の配布をお願いする。

２月２１日

今年度の打合せの為、夫婦で京都フランシスコの家を訪ねる。

２月２９日

塔にバラ５０本植える（結局３～４年で虫に食われ全滅）

３月１９日

総領事ウイットカム親子来拝。町長訪問。ベストメンバーで歓迎会（芦屋）

３月下旬から妻の知愛、毎週土日を花園作りに専念する～１９９６年迄続く（以下省略）

４月９日～４月１８日

筑豊、長崎、福岡、地区担当者との協力作業打合せ訪問

８月１８日

全員で竹切り草刈清掃約１５名

９月２９日

サレミンク神父　最終打ち合わせ来訪

１０月１４日

杁小生徒　草取り奉仕

１０月１６日

水中生徒清掃奉仕

１０月２３日

上野へ１，０００本位菊摘み（芦馬先生お世話、無償）

１０月２３日

ウインクラー一行（１６名）出迎え（福岡空港）

１０月２５日

育む会主催　第６回献花式

来賓１６名　一般参列者１５０名

午後　歓迎会（中央公民館）

１０月２６日

福岡大牟田組ＪＲにて。博多ホームにて守田幸夫氏。

その他車３台で筑豊へ（黒河、石原長三、金子崇正）

飯塚、稲築、宮田で担当者主催歓迎会実施。

１０月２８日

福井彰一の通訳で町バスを使い初の水巻町全体観光（１０人、ＴＶ収録を兼ねる）

１０月２９日

バスで直方、田川各石炭資料館、上野焼見学

（芦馬先生案内と共に全員におみやげ）

全員ハウステンポス（宿泊所）へ向け出発（ＪＲ）

１０月３０日

長崎市、香焼町の収容所跡と平和会館での行事。

松尾緑さんにより急遽市のバスを最優先で丸一日使用。

１０月３１日

長崎本島市長との平和懇談会

１１月２日

水巻小中学校平和交流

１１月３日

文化祭交流

１１月５日

午後帰国　計１４日間随行終了

１２月６～７日

各地お礼廻り、筑豊、中間、福岡、長崎、香焼

１２月２４日

クリスマス礼拝　塔全部にキャンドル灯す。

１２月２５日

福井彰一通訳強化の為　英検上位取得を目指す。

●１９９３年（Ｈ５）

1月２９日

サレミンク神父来訪、本年度初打合せ

5月１３日

ウインクラー氏、サレミンク神父共に来訪

5月１４日

ウインクラー氏、当会仲介の下、伊藤町長に姉妹都市提携を提案。

8月１２日

竹切り草刈り清掃作業（チーム全員）

9月２８日

塔及び周辺塗装塗り替え

（一家、中村増男、今岡秀夫、肥塚八十生、福田陽子、長田まり、杉本紗知）

１０月１～２日

水巻中学生草取り奉仕

１０月１５日

机小学生草取り奉仕

１０月２８日

上野へ１，０００本位菊摘み（芦馬先生の世話、無償）

ウインクラー一行２１名出迎え（福岡空港）

１０月３０日

十字架の塔と門司港行き（山田浩幸運転）

１０月３１日

育む会主催　第７回献花式

来賓２３名（大使夫妻参加）　一般参列者約２００名

午後歓迎会（中央公民館）

１１月１日

筑豊各地へ（ＪＲ利用）

中間市、飯塚市、稲築町各受入れグループが各駅ホームに待機。

帰りはそれぞれ車で八幡駅近くのホテルへ送る。

１１月３日

水巻町民と文化祭参加

１１月４日

長崎へバスで向かう。同行、芦馬鷹洲・古沢弘行（村瀬勝美運転）

長崎市、香焼町視察後、島原泊（南風楼）

１１月５日

フェリーで熊本阿蘇山見学、九重泊（九重ハイランドホテル）

初めて観光を加えた理由は遺族子息及び日本兵を父に持つ子息に普通の日本の秋と温泉を体験させたかった。ホテル側はその意をくんで室料に関係なく全室を解放してくれた。支配人は田川市の出身だった。全員大喜びだった。今後、可能な限り実行しようと思った。

１１月８日

水巻中学校、杁小学校、頃末小学校を交流訪問

１１月９日

帰国、福岡空港へ送る。(町バス、山田浩幸運転)

１１月１５～１７日

長崎市、香焼町、筑豊、中間各地　お礼廻り

１２月２４日

クリスマスツリー、リース、キャンドル（２００本）で飾り祈りを捧ぐ。

●１９９４年（Ｈ６）

７月　(山田氏より聞いた話)

仕事の都合でやむを得ず、昨年末、今年の献花式は中止することを双方で合意していた。

しかし、ウインクラー氏が来日を強く望んでおり役場に相談した様子。その後、役場の山田氏から慰霊団の受け入れを懇願されたが「俺が中止と言ったら中止。町が関わることも一切認めない。」と一喝して拒否。一方、役場側も「黒河さんを差し置いて町が慰霊団を受け入れることはできない。町としては一切関わらない」との見解を示したようである。

その後、山田氏とラルフ氏が話し合い、独断でウインクラー氏たちの受け入れを決意し、黒河博（兄)、松屋旅館女将の勇氏らの協力を得て、慰霊団一行を受け入れた。

８月３日

外務大臣表彰受ける、省二夫妻、行正悟（随行）３名上京

８月１１日

当会竹切り草刈り清掃

１０月

ウインクラーさん一行来日。(山田・ラルフの個人的受入による。)

⇒慰霊団滞在中の行動（抜粋）(主な移動手段はマイクロバスのレンタカー)

・十字架の塔への献花（黒河博主催、質素に献花のみ。公式には献花式は開催していない事になっている。)

・宗像市の自由ケ丘中学校訪問（慰霊団の強い要望でラルフ氏手配。)

・則松小学校訪問（松屋の勇氏が手配。)

・水巻町中央公民館文化祭見学

・門司港訪問（JR で移動。松屋の勇氏手配)

※よくぞ自費をもって２人で頑張ってくれた！！

１０月２４日

オランダ大使夫妻来塔、明石美代子（外務省）随行

チルドレンクラブ主催献花式（黒河悦子、長田真里、杉本沙知、磯野愛、福田ようこ５名）

立会　芦馬鷹洲、黒河夫妻、明石美代子（外務省）

１２月２４日

クリスマス礼捧

●１９９５年（Ｈ７）

５月２３日

オランダ大使と会合（東京）

５月２４日

サレミンク神父と会合（京都）

７月３１日

田中町長、柴田英人、吉田紀男、山田浩幸、学生交流申し入れの為訪蘭（省二付添い）現地合流サレミンク神父

夜、佐藤行雄大使主催歓迎会（ホテルオークラ）

大使と省二、ワインの良し悪しがきっかけで１時間以上多様に熱論。

大使ムキだったが、誠実とても心に残る人だった。

大使が食事の注文忘れ、全員食事なしで酔っ払って終了。

しかし皆いい顔をしていた。

８月２日

ノーストオールドポルダー市長訪問、会議（好調に終了）

午後　博物館　植物園視察

夜　クニップ市長主催歓迎会

８月３日

介護施設　図書館　病院等視察（サレミンク神父合流）

８月４日

アムステルダム市見学

８月５～１１日迄

これより黒河省二単独行動（帰国迄）

①　故訪日者の墓参（３名）

②　〃　　の家庭訪問及び宿泊（４か所）

１９９２年のオースチン家で歓待受ける。

③ＥＫＮＪとＪＩＮの会との会議（サレミンク神父通訳）

９月５日

竹切り、草刈り清掃

９月１２日

上京、外務省にて明石美代子氏と日蘭平和交流シンポジウム開催についての最終詰め合せ（外務省要請の為）

９月１３日

京都サレミンク神父と同じくつき合わせ

９月１７日

花壇の竹垣、総入替（有志者全員）

９月２０～２５日迄

シンポジウム成功の為の打合せは以下の通り（責任者のみ）

水巻町役場　音響配信等会場設営　小野元次

上記以外の会場全体管理　山下勝利、　行正悟、山田浩幸

捕虜の信仰についての考察　小笠原　勝巳（水巻キリスト教会）

戦争心理について　芦馬鷹洲（赤池町）

資料編集　黒河省二

資料作成　黒河悦子、山田浩幸

その他　飯塚市、稲築町、飯塚文連と各打合せ

１０月３日

長崎市平和会館事前訪問（松尾緑、永田博光）

香焼町事前訪問（総務　村井）

１０月６日

筑豊各地事前訪問

１０月２８日

午前、ディスプレイ用菊摘み（１１名）１，５００本芦馬氏世話

午後、ディスプレイ（１３名）

作業着のまま、ウインクラー氏一行（３０名）迎え（町バス山田浩幸運転）

１０月２９日

育む会主催　第８回献花式

来賓３２名（大使、元首相、クニップ市長含む）一般参列者約２００名

○その日、リースしていたアンプが壊れた。いつものベートーベンのレクイエムも何も聴こえなくなった。どうしようかと思った。

いーつくしみ　ふかーき　とーもなる　イエスはー　つーみとが　うれいーをー

突然聞こえてきた、水巻キリスト教会の人達の声。３０分間つないでくれた。

自分たちの献花を最後に回し、歌いながら白菊を捧げていた。２００人以上の献花の列が終り、讃美歌も静かに消えた。こんなに尊い美しい追悼。

神の演出だったのだろうか。第１回目から毎回、何も言わずに唯務めを果たし静かに去って行く人達だった。

○午後日蘭平和交流シンポジウム（主催　育む会、後援　外務省・水巻町）

参加者約８０名

パネリスト　ドルフ・ウインクラー、Ｍ・クルル（ＥＫＮＪ）

ヒデキ・ボーデスタッフ（ＪＩＮ）

芦馬鷹洲（鷹洲会）

明石美代子（外務省）

黒河省二

黒河知愛

通訳　　ゲラルド・サレミンク（京都フランシスコの家）

司会　　林康夫（(財）オイスカー）

歓迎会（特別運営班）

・全体進行接待係　チルドレンクラブ黒河悦子、長田真里、杉本沙知、磯野愛、福田ようこ

・町募集通訳班
・町職員各部接待役
・音響、照明係
・アトラクション出演者

町の自主活動の為、おまかせ心で氏名の掌握まで手が回らなかった。

１１月１日

長崎へ（ＪＲ）

クニップ市長一行同行、福井彰一（通訳）、織田隆徳（随行）、黒河夫妻、芦馬鷹洲、中村増男

松尾緑、長崎市バスを手配。２日間使用。

香焼町訪問

市内泊（稲佐山観光ホテル）

１１月２日

稲佐山観光～平和公園（献花）

伊藤市長と平和懇談会（田崎、松尾両氏企画）

１１月３日

水巻町文化祭交流

１１月４日

釜石（岩手）川崎（神奈川）組現地へ出発

リンディエール氏の亡父の恩人（日本人）捜しに全面協力。岩手日報、川井氏と釜石市民の活躍が実り帰国前に子息（東京）が判明。ＴＶ、新聞、奇跡の対面と報じる。数年後、亡父の収容所日記が日本でも刊行される。

１１月７日

広島平和記念館、釜石、川崎組合流（資料館見学）

市長訪問

１１月８日

田川石炭博物館見学（運転　村瀬勝美）

英彦山のロッジにてバーベキュー（芦馬氏提供）

鷹洲会主催懇談会（鷹洲会道場）

折尾高校ＰＴＡ日蘭座談会

１１月９日

杁小学校訪問（共に給食）

頃末小学校訪問

１１月１０日

水巻中学校交流会

１１月１１日

帰国

福岡へ（町バス　山田浩幸運転）

１１月１３日

筑豊各地お礼回り

１１月１７日

れいこ・ランゲルト姉妹と福岡で会合

１１月１８日～１９日

長崎市香焼町お礼回り

１２月１８日

外務省明石美代子面談（東京）

１２月１９日

サレミンク神父反省会（京都）

１２月２４日

塔にてクリスマス礼拝

●１９９６年（Ｈ８）

1月１日

黒河省二、心肺停止の大けが。ややあって活動停止を余儀なくする。

以降回復に１０年超かかる

9月１３日

日蘭修好４００周年記念日本政府事業

日蘭虹のかけ橋計画（外務省）に沿っての第一次視察団

「対日道義的債務基金」（最も厳しい対日感情を有する旧軍人団体）

オランダ一行２２名。リーダー（シュールド・ラプレ）

（外務省明石美代子随行）塔に献花。外務省の依頼にて黒河省二夫妻のみで受け入れ。）

初めてウインクラー氏を見た時より、更に険しい表情の人々の群れだった。

彼等なりの追悼が済み、リーダー「誰が管理をしているのか」

家族と友人だ。「行政は？」ほとんど無い。

「お金やスポンサーは？」友人、知人からの借金だ。
「まさか！本当か？この花も？」妻が週２日かけて育てている。
皆で集まって外務省の人に真意を確かめていた。
振り向いた瞬間、表情がすっかり変わっていた。「写真を撮らせてくれ。」
妻と二人で塔の前に並んだ。

その夜、電話がかかり、明石さんから最大級の謝辞が立て続けに飛んできたと妻より聞いた。
それまでの数日間の行程は険悪そのものだったそうだ。
明石さんは最後に私達夫婦に懸けてくれたんだなーとそう思った。

●１９９７年（Ｈ９）

４月４日

サレミンク神父病死
夫婦、悦子、守田夫妻葬儀参列
荘厳な教会にミサが流れた。
各地からの電文が読まれ、最後に愛と平和で格調高く、哀しみに満ちたひときわ長い長崎市からの電文が朗読されるにつれ人々からおえつがもれだした。
そしてフィリピンのジャパユキさん一群のいっせいの泣き声が彼の生涯の真実を讃えた。

１１月３日

黒河省二、町長表彰

現在（2011.11）

１９９６年再起不能と医者から告げられた私の大怪我と看病する妻の喘息発生の為、十数年放置してきた花園を２００９年３月から復活にかかりました。

２００８年１２月に来日者すべてのオランダ人に共通文の手紙を出し文通を再開したのが動機でした。

幸い北九州市の長濱里子氏からの１５万円の寄付があり元メンバーの中村増男と上村孝一君、新人の後藤望月さんらが手伝って腐葉土２００袋を使って土の再生から出発。始めて２年間は２００日位作業をしました。塔も真白にしました。

腰がガタガタになりました。花園広さも３倍くらいに広げ３年目でそれらしくなりました。でも往年の何とも言えない美しさには届いていません。

そんな中、嬉しい事が３つありました。１つは役場ＯＢの木杜の会（代表下川満）他７名が塔周辺の広い範囲を自主的に草刈りしてた事。２つは水巻町頃末北区の奥さんたちを中心に３０人以上の人が種や苗を進んで提供してくれた事です。もう一つは町が運営する中学生交流のＯＢで北九州工専生５年の澤中慎之介君が２０１１年、３月加わった事です。チルドレンクラブ以来初めてのメンバーです。きっかけは塔の中に置いていた雑記帳、「命のノート」にあった彼の優しい心の綴りでした。私達もこれから先は高齢者になります。続いてくれる人々を育てねばなりません。借家に備えつけのデカイくつ箱。食卓の長い棚の上に並ぶ様々なプレゼント。玄関のカベにはってる思い出深い写真がいつも語ります。気持ちある方連絡してください。

最後に今年の１月から１１月迄、この記録が作られる間たびたび興る私の心臓病や妻の急性白血病等もあった中、前半の私の執拗な非難攻撃にも拘わらず常に態度を変えず本当に温かい心で待機してくださっていた水巻町役場の

野口和夫氏（生涯学習課課長）

原田和明氏（福祉課　主幹）

堺正一氏（企画財政課長）

小野元氏（国際交流協会　事務局長）

河村直樹氏（生涯学習課）

の協力に感謝いたします。心を込めてここに附記する次第です。

追伸

心の旅路の中には、ほとんど私個人の思想は入ってません。入っているのは私の姿勢です。

感想の中で、サレミンクさんの言う、日本人は相手を先に考え自分を考えるのと同じです。

とにかく毎年新しい人がほとんどだから、妻がしっかり空港から出て来る不安顔の人を観察して、その人の精神状態を推し量ってからのぶっつけ本番の現場主義。

つまり、あるがまま今を生きている人同志という思いで全く 100%かけひきなしで、自分達に出来る最大の努力をしてきたのだと思います。

幸い捕虜についての本は全く読もうという事に気付いてなかったので先入観が無いし良くも悪くも自然態で接してきただけです。唯、あったのは帰りの空港で全員が笑顔でそして幸せな顔で姿が見えなくなる迄、見送れるように二週間頑張ろうという使命感でした。

妻の計画でした。そしてその通り以上に、空港で自分達が恥ずかしい位皆さんはほめたり感謝してくれたりしました。そして礼状も暖かいものばかりでした。

英語が得意ではないので多くの人に返礼が出来ず文通を盛んに出来なかった事が後悔と反省です。

正直私達はいつもお金の余裕が全く無く、借金は私達の基準では莫大になってました。私はマネービルと縁のない人間だったのです。その分妻は年中お金で苦労してました。

来日者に関わる年間を通してのお金は全て知人友人からの借金とサラ金でした。活動中に私の思想など入る余地はありません。皆さんが被害者という事だけは分っていても、そのレベルを想像など出来ません。皆さん違って当然です。

1 人の人にはその人だけの人生があります。だから私達が案内をし催しをして、この日本に居た日だけでも幸せな人生の思い出として残してあげたい。

結論を言えば唯それだけだったような気がするし、それ以外に思い当たるものが今でも思いうかびません。

お金を貸したままで 1 度も請求しないA、B、C、D、E さんありがとうございます。

【写真】

①会結成時（1986 年）

②第 1 回献花式（1987 年）

③第 2 回献花式（1987 年）

④梅ノ木の公民館にて歓迎会（1989 年）

⑤宮田町収容所跡視察（1990 年）

⑥第 5 回献花式（1991 年）

⑦飯塚市収容所跡（飯塚市文連提供）（1991 年）

⑧商工会館にて（1992 年）

⑨第 7 回献花式（1993 年）

⑩Ｘマス前の作業を終えて（1994 年）

⑪日蘭チルドレンクラブ主催　大使夫妻献花式（1994 年）

⑫日蘭チルドレンクラブ主催　大使夫妻献花式（1994 年）

⑬杁小学校訪問（1995 年）

⑭第 8 回献花（1995 年）

⑮サレミンク神父葬儀後、れいこ・ランゲルト、知愛（1996.4.4）京都丸山公園

⑯対日道義的債務基金のメンバー（1996 年）